

京都大学医学部保健学科業績リスト (2006年1月1日～12月31日)

看護科学コース

基礎看護学講座

著 書

菅 佐和子：思春期・青年期の心理臨床—女性の場
合—。伊藤美奈子編，思春期・青年期臨床心理学。朝
倉書店：163-176。

若村智子：光環境—明るさと色彩。深井喜代子監修，
基礎看護学テキスト。南江堂：147-151。

若村智子，堀田佐知子，大島理恵子：バイタルサイン
領域1 日常生活と体温—体温調節における皮膚の役
割。基礎看護学テキスト。南江堂：436-437。

若村智子：病床における明暗環境。深井喜代子監修，
ケア技術のエビデンス。へるす出版：21-29。

原著論文

菅 千索，菅 真佐子，菅 佐和子：対人援助職を目指
す学生の適応と情動知能ならびにセルフ・エスティーム
との関係。ヒューマン・ケア研究，2006；7：
20-34。

堀田佐知子，若村智子，谷口充孝，近田敬子，鷗山
治：睡眠時無呼吸患者の睡眠に関連した生活習慣調
査。兵庫県立大学看護学部紀要，2006；13：27-38。

総説・その他

菅 佐和子：思春期の子どもに関わる教師と親へ。児
童心理，2006；8：2-11。

菅 佐和子，宮島朝子，若村智子：看護学生のコミュ
ニケーション能力の醸成を目指す授業の試み。健康科
学，2006；2：41-45。

菅 佐和子：こころの理解のエビデンス，臨床看護，
2006；10：32-12，1684-1692。

宮島朝子：環境調整のための10のヒント—4コミュ
ニケーション。Nursing Today，2006；21：25。

宮島朝子：環境調整のための10のヒント—5生体リズム。
Nursing Today，2006；21：26。

宮島朝子：環境調整のための10のヒント—8睡眠。
Nursing Today，2006；21：29。

坂田岳彦，宮島朝子，見寺貞子，瀬能 徹，小山美
代：新しい「病院のサインデザイン」の提案—リハビリ
テーション病棟における試み。健康科学，2006；
3：63-66。

学会発表

堤 美幸，宮島朝子：産褥婦に対するメディカルエス
テの効果。日本看護研究学会第19回近畿・北陸地方会
学術集会，2006.3，滋賀。

上原恵美，大槻秀美，金子ちあき，宮島朝子：「ここ
ろの健康づくり」に携わる保健師の意識改革—アク
ティウォッチを用いた支援を通して。第65回日本公衆
衛生学会総会，2006.10，富山。

大井元晴，若村智子：経鼻陽圧呼吸療法の適応・効果
と限界。第46回日本呼吸器学会，2006.6。

若村智子，堀田佐知子，大井元晴：ESSによる眠気
スコアが変化しない閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者の
nCPAP 継続理由。日本睡眠学会第31回定期学術集
会，2006.6，宇都宮。

近藤雅之，登倉尋實，若村智子，Ki-ja H，保 智己，
森田 健，大石 正：漸次的な照度変動が睡眠中の深
部体温変動，尿中メラトニン分泌および起床時の睡眠
感に与える影響。日本睡眠学会第31回定期学術集会，
2006.6，宇都宮。

堀田佐知子，坂下玲子，若村智子，近田敬子，鷗山
治：睡眠時無呼吸症候群 (OSAHS) 患者の CPAP 療
法継続に関する要因の検討。日本看護研究学会，
2006.8，別府。

若村智子：光・温度がヒトのサーカディアンリズム機
構に及ぼす影響。琉球大学熱帯生物圏研究センター共
同利用研究会「生物時計の多様性と生態機能に関する
研究のトピックス」，2006.9，国頭郡。

Wakamura T, Oishi T, Muramatsu K, Ki-ja H, Kondo
M, Kobayashi K, Lai Y, Yoneda M, Harada H,
Ishimaru S, Tokura H: Influence of 3 hr natural solar
UV exposure on core and skin temperature and fatigue.
8th international congress on physiological anthro-
pology, 2006.10, Kamakura.

Ki-ja H, Wakamura T, Oishi T, Kobayashi K, Kondo
M, Koh T, Ishimaru S, Harada H, Nishimura S, Tokura
H, Muramatsu K, Yoneda M: Effect of Ultra-violet
exposure on some immunological parameters in humans.
8th international congress on physiological anthro-
pology, 2006.10, Kamakura.

柴田真志，若村智子，柴田しおり：起床時体温低温値
児童の夜間体温変動。第53回日本学校保健学会，

2006. 11.

Chikamori E, Sudo T, Masuda A, Muramatsu K, Yoneda M, Wakamura T, Li Y, Tokura H, Oishi T: Effects of UV Irradiation on the Locomotor Activity and Body Temperature Rhythms in Hairless Mice. 3rd Asia and Oceania Congress of Photobiology, 2006.11, Beijing.

鈴木和代：看護婦ナイチンゲールの誕生—近代看護神話の語りなおし—。第20回日本看護歴史学会学術大会，2006. 8，東京。

臨床看護学講座

著 書

江川隆子，鷹井清吉，笠岡和子，奥津文子，本田育美，小平京子，神山幸枝：これなら使える看護診断 第2版。医学書院，東京，2006；総頁237。

江川隆子，笠岡和子，紙野雪香，倉光広子，大徳真珠子，藤原正恵，本田育美，増田紀子，山本洋子：江川隆子のかみくだ看護診断 第4版。日経研出版，名古屋，2006；総頁171。

坂田三允総編集，赤澤千春，他15名：精神看護エクスペール19，患者の安全を守る看護技術。中山書店，2006；58-79，東京。

林 優子，櫻庭 繁編，赤澤千春，他18名：いのちを伝える臓器移植看護。メディカ出版，大阪，2006；8-18，117-121，194-204。

原 著

新谷恵子，江川隆子，大田 聡，石田陽一，堀上健幸，清水美保，早津美子，山田裕治，飯田博行，奥宮暁子，城戸良弘：動静脈瘻造設後の血管成育に及ぼす運動負荷の効果。日本透析医学会雑誌，2006；39：117-122。

本田育美，大徳真珠子，藤原優子，江川隆子：糖尿病性足病変の危険因子指標に対する看護師による足のアセスメントの信頼性に関する検討。日本糖尿病教育・看護学会誌，2006；10：115-121。

大徳真珠子，本田育美，奥宮暁子，山崎義光，笠山宗正，池上博司，宮川潤一郎，久保田 稔，江川隆子：セルフケア行動評価尺度 SDSCA (The Summary of Diabetes Self-Care Activities Measure) の日本人糖尿病患者における妥当性および信頼性の検討。糖尿病，2006；49：1-9。

総説・その他

江川隆子：透析看護における看護の専門性 看護診断の確認と活用。看護診断，2006；11：142-143。

江川隆子：アセスメントが得意になる！ 看護診断の基本を理解しよう。プチナース，2006；15：28-33。

江川隆子：アセスメントが得意になる！ 看護診断の基本を理解しよう。プチナース，2006；15：24-27。

本田育美，大徳真珠子，江川隆子：フットケアのいまとこれから 欧米におけるフットケア関連研究の文献レビュー。看護技術，2006；52：228-233。

学会発表

松本珠美，奥宮暁子，江川隆子：Foot Care Confidence Scale 日本語版作成に向けての妥当性と信頼性の検証。第26回日本看護科学学会学術集会，2006. 11。

Akazawa C, Okutsu A, Teraguchi S, et al: The Relationship Between Postoperative Psychiatric Disorders (PPDs) and Psychosocial Factors in Adult Living-Related Liver Transplantation (LRLT) Recipients. ITNS, 2006.

Okutsu A, Akazawa C, Teraguchi S, et al: The Relationship Between Postoperative Psychiatric Disorders (PPDs) and Recovery Process of Adult Living-Related Liver Transplantation (LRLT) Recipients. ITNS, 2006.

西薊貞子，赤澤千春：臨地実習における評価者間の評価視点の相違と，今後の取り組み課題の検討。日本看護研究学会，2006，大分。

大徳真珠子，江川隆子，藤原優子，山崎義光，船橋徹，笠山宗正，池上博司，宮川潤一郎，久保田 稔，下村伊一郎，奥宮暁子：足潰瘍発症リスクに合わせたフットケア行動に対する看護介入の検討。第49回日本糖尿病学会年次学術集会，2006. 5，東京。

坂部まゆみ，安達真澄，小幡名加，藤巻山美子，沢 丞，大徳真珠子：外来通院糖尿病患者に対するフットケア介入のセルフケア行動尺度による評価の試み。第49回日本糖尿病学会年次学術集会，2006. 5，東京。

大徳真珠子，江川隆子：糖尿病患者の爪白癬に対するフットケア介入の効果。第11回日本糖尿病・教育看護学会学術集会，2006. 9，京都。

天谷真奈美，柴田文江，鈴木麻揚：地域生活を送る精神障害者の社会資源の活用状況と生活意識に関する検討—社会復帰施設利用者とデイケア利用者との比較から—。第37回日本看護学会—精神看護—，2006. 7，仙台。

Amagai M, Suzuki M, Shibata F, Sekine T, Kobayashi

N, Abe Y, Yamashita M, Kayaba K: Instrument Development in measuring the Self-Efficacy Scale for Social Participation in people who are afflicted with Mental Illness, and to Evaluate its construct validity. 9th International Journal of Behavioral Medicine, 2006.11, Bangkok.

Suzuki M, Amagai M, Shibata F, Abe Y, Kobayashi N, Sekine T: Factor Related to The Self-Efficacy for Social Participation of Persons with Mental Disabilities. 9th International Journal of Behavioral Medicine, 2006.11, Bangkok.

Shibata F, Amagai M, Suzuki M, Sekine T, Abe Y, Kobayashi N: Evaluation of the Criterion Related Validity of 'the Self-Efficacy Scale for Social Participation' for people who are afflicted with mental illness. 9th International Journal of Behavioral Medicine, 2006.11, Bangkok.

地域保健看護学講座業績

原著

Uemura K, Kihara T, Kuzuya A, Okawa K, Sugimoto H, Shimohama S and Kinoshita A: Characterization of N-cadherin cleavage by ADAM10 and Presenilin 1. *Neurosci Lett*, 2006; 402: 278-13.

Uemura K, Kihara T, Kuzuya A, Okawa K, Bito H, Ninomiya H, Sugimoto H, Shimohama S, and Kinoshita A: Modulation of beta-catenin nuclear signaling via epsilon-cleavage of N-cadherin. *Biochem Biophys Res Commun*, 2006; 345: 951-958.

桂 敏樹, 三浦範大, 高橋康朗, 久木誠一, 星野明子, 赤澤千春, 奥津文子, 中川亜由美: 階段下降時における転倒高齢者の視覚による情報探索の特性—アイマクレコーダによる転倒高齢者, 非転倒高齢者, 中年者, 若年者の定性分析—. *健康科学*, 2006; 2: 67-71.

Katsura T, Matsuda K, Yamazaki M, Hoshino A: Prevalence of Metabolic Syndrome in 400,000 Japanese Resided in All Prefectures. *Journal of Health Medicine*, 2006; 14: 46-53.

桂 敏樹, 星野明子: 地域高齢者の自立した移動能力の特性—前期高齢者と後期高齢者の歩幅に関連する身体的要因の比較—. *日本健康医学会雑誌*, 2006; 14: 16-24.

桂 敏樹, 松田一美, 山崎真理, 星野明子: 日本人40万人の20歳代から70歳代までの肥満の推移—Body Mass Index に関するコホート研究から—. *日本健康*

医学会雑誌, 2006; 15: 24-28.

桂 敏樹, 松田一美, 山崎真理, 星野明子: 高齢者の体重管理と生活習慣病に関する縦断的研究. *日本健康医学会雑誌*, 2006; 15: 2-8.

星野明子, 桂 敏樹, 山本昌恵: 人口空洞化地域における高齢者の自立支援のためのサテライトシステムの構築—商店街空き店舗に設置した「すこやかサロン」の開設と活動状況—. *日本農村医学会雑誌*, 2006; 55: 402-407.

中澤祐子, 星野明子, 桂 敏樹: 大学生の育児意識に関する一考察. *健康科学*, 2006; 2: 73-78.

Kubota M, Nagasaki M, Tokudome M, Shinomiya Y, Ozawa T, Sato Y: Mechanical horseback riding improves insulin sensitivity in elder diabetic patients. *Diabetes Research and Clinical Practice*, 2006; 71: 124-130.

総説

木下彩栄, 安藤功一, 植村健吾: プレセニリン/ γ セクレターゼによるシナプス蛋白質転写制御機構. *生化学*, 2006; 78: 965-972.

成木弘子: 地域ケアのエビデンス; コミュニティ・リーダーの育成技術. *臨床看護*, 2006; 32: 1731-1741.

学会発表

木下彩栄, 植村健吾: プレセニリンの基質切断機構. 第4回神経科学研究会, 2006. 11, 東京.

植村健吾, 下浜 俊, 下園由泰, 葛谷 聡, 木下彩栄: N-カドヘリンとプレセニリン結合の制御に関する細胞生物学的検討. 第25回日本認知症学会, 2006. 10, 広島.

Uemura K, Kuzuya A, Shimozono Y, Shimohama S, Kinoshita A: N-cadherin cleavage by ADAM10 after NMDA receptor stimulation is inhibited amyloid-beta peptides. The 10th International Conference on Alzheimer's disease and related disorders, 2006.7, Madrid.

植村健吾, 葛谷 聡, 安藤功一, 下浜 俊, 木下彩栄: Abeta のカドヘリン代謝に与える影響について研究. 第47回日本神経学会総会, 2006. 5, 東京.

Katsura T, Matsuda K, Yamazaki M, Hoshino A: A prospective cohort study on correlation between weight fluctuation and metabolic syndrome in 150,000 Japanese resided in all prefectures, Japan. *International Con-*

gress of Agricultural Medicine and Rural Medicine, 2006.6, Lodi.

Hoshino A, Katsura T: Examination of satellite system at a local shopping center for supporting independent living of elderly people. International Congress of Agricultural Medicine and Rural Health, 2006.6, Lodi.

久保田正和, 越中敬一, 川田裕樹, 小池晃彦, 押田芳治: 10日間の水泳トレーニングと低糖質食摂取がラット骨格筋の GLUT-4 蛋白量に及ぼす影響. 第49回日本糖尿病学会年次学術集会, 2006. 5, 東京.

李 萍, 久保田正和, 川田裕樹, 小池晃彦, 押田芳治: 高果糖誘発インスリン抵抗性ラットに対するARBの効果(第2報). 第49回日本糖尿病学会年次学術集会, 2006. 5, 東京.

宇野智子, 鈴木麻里, Oyun K, 四宮葉一, 小澤尚久, 越智和弘, 久保田正和, 佐藤祐造: 脚部他動運動機器を用いた高齢糖尿病患者における運動療法に関する検討. 第49回日本糖尿病学会年次学術集会, 2006. 5, 東京.

Oyun K, 久保田正和, 宇野智子, 佐藤祐造: Effect of Mongolian plants on in vivo insulin action in diabetic rats. 第23回和漢医薬学会大会, 2006. 8, 岐阜.

川田裕樹, 久保田正和, 小池晃彦, 押田芳治: 坐骨神経切断が骨格筋への糖取込みとインスリンシグナル伝達機構に及ぼす影響. 第61回日本体力医学会大会, 2006. 9, 神戸.

講演

木下彩栄: APP トラフィッキングとアルツハイマー病. 第83回日本生理学大会シンポジウム, 2006. 3, 群馬.

木下彩栄: アルツハイマー病の分子機構. 京都大学再生医科学研究所セミナー, 2006. 7, 京都.

桂 敏樹: 最近太り気味が気になりませんか. 東山区栗田老人デイサービスセンター講演, 2006. 3, 京都.

桂 敏樹: 体重管理と健康. 東山区栗田老人デイサービスセンター, 2006. 8, 京都.

桂 敏樹: 転倒予防一転ばぬ先の……。2006. 10, 京都.

桂 敏樹: 寝たきりにならないために. 2006. 12, 京都.

成木弘子: 関係づくりとニーズの顕在化「看護活動におけるニーズの把握方法」. 日本看護技術学会第5回

学術集会, 2006. 11, 岡山.

家族健康看護学講座業績

著書

我部山キヨ子編著: 臨床助産師必携第2版. 医学書院, 東京, 2006.

我部山キヨ子他: 系統別看護師国家試験問題解答と解説2007. 医学書院, 東京, 2006.

原著論文

田中優子, 野口裕子, 鈴木真知子: 在宅における超重症児の子育てと子育て支援に関する文献検討. 日本赤十字看護大学紀要, 2006; 6: 29-37.

松崎政代, 春名めぐみ, 大田えりか, 渡辺悦子, 村山陵子, 塚本(渡邊)浩子: 妊娠中の酸化ストレスマーカーとしての尿中バイオピリン. 日本助産学会誌, 2006; 20: 40-49

総説・その他

我部山キヨ子: 図解助産師のためのフィジカルイグザミネーション—終章妊娠期のトラブルや胎児に関する診察のアドバンスト編. 助産雑誌, 2006; 60: 893-904.

永山くに子, 我部山キヨ子: EU 諸国における助産師の卒前教育—ドイツ・オランダおよびスウェーデンの調査より—. 健康科学, 2006; 3: 49-53.

我部山キヨ子, 永山くに子: EU 諸国における助産師の卒前教育—ドイツ・オランダおよびスウェーデンの調査より—. 健康科学, 2006; 3: 55-61.

池添冬芽, 我部山キヨ子: 女性のこころとからだの相談室. 健康科学, 2006; 3: 35-37.

齋藤ゆみ, 稲本 俊, 我部山キヨ子, 他11名: 「がん患者さんとそのご家族のためのウエルネスセッション」研究会の活動. 健康科学, 2006; 3: 45-48.

鈴木真知子: 小児リハビリテーションにおける海外での現状. 小児看護, 2006; 29: 1137-1140.

鈴木真知子: 長期療養児の在宅ケア支援システムを構築して. 看護教育, 2006; 47: 389-393.

鈴木真知子, 多田羅勝義, 河原仁志, 石川悠加: 長期療養児の在宅自律支援プログラム—日本の小児在宅人工呼吸療養支援とニュージャージー州のプログラムを比較して—. —2005年度報告—. 平成17年度在宅医療助成 勇美記念財団助成金助成対象事業研究報告, 2006.

鈴木真知子: 在宅生活を支える訪問看護のあり方を考える. 訪問看護と介護, 2006; 11: 139-148.

塚本（渡邊）浩子，福岡秀興，杉山 隆，永井 泰，小笠原加代子：妊娠中の脂質代謝の変化と胎児発育に及ぼす影響。平成17年度厚生労働科学研究補助基金子ども家庭総合研究事業分担研究報告書，2006；48-54.

福岡秀興，下村達郎，塚本（渡邊）浩子，向井伸治，永井 泰：胎児期の栄養管理と生活習慣（成人）病（fetal origins of adult disease; FOAD）。臨床婦人科産科，2006；60：296-301.

学会発表

宮崎つた子，橋本伸清，杉嶋克之，井倉一政，我部山キヨ子：中学校での積み上げ教育の取り組み—命の大切さを学ばせる体験活動報告—。第25回日本思春期学会総会・学術集会，2006，大阪。

井倉一政，宮崎つた子，橋本伸清，我部山キヨ子：中学校での積み上げ教育の取り組み—3年生に対する事後アンケートからの検討—。第25回日本思春期学会総会・学術集会，2006，大阪。

千葉陽子，金岡 緑，我部山キヨ子，菅 佐和子：幼少期における親の養育態度が現在の親子関係に及ぼす影響（第1報）—大学生と父親との関係性。第53回日本小児保健学会，2006，山梨。

金岡 緑，千葉陽子，我部山キヨ子，菅 佐和子：幼少期における親の養育態度が現在の親子関係に及ぼす影響（第2報）—大学生と母親との関係性。第53回日本小児保健学会，2006，山梨。

井倉一政，宮崎つた子，我部山キヨ子：父親の成長発達に関する研究—世代間比較を通して—。第53回日本小児保健学会，2006，山梨。

岡島文恵，我部山キヨ子，金岡 緑，宮中文子，澤本万紀子，千葉陽子，山口琴美：助産師学生の臨床経験に関する研究（第1報）—教員が必要と考える臨床技術回数と経験させたい技術。第47回日本母性衛生学会総会・学術集会，2006，名古屋。

金岡 緑，我部山キヨ子，岡島文恵，宮中文子，澤本万紀子，山口琴美，千葉陽子：助産師学生の臨床経験に関する研究（第2報）—教員が学生に求める卒業時の臨床技術到達度について。第47回日本母性衛生学会総会・学術集会，2006，名古屋。

車井里衣，坊農まゆみ，浜田彩香，中江令子，我部山キヨ子：20歳前後の女性における冷えの実態と月経随伴症状の関係。第47回日本母性衛生学会総会・学術集会，2006，名古屋。

友野鮎子，中村理恵，松本理加，佐々木麻江，我部山キヨ子：アロマセラピー導入による月経随伴症状の緩

和—吸入法の施行時と未施行時の比較—。第47回日本母性衛生学会総会・学術集会，2006，名古屋。

森 千春，宮崎つた子，本田育美，我部山キヨ子：大学生におけるボディイメージとダイエットの関連性—男子学生と女子学生の比較。第47回日本母性衛生学会総会・学術集会，2006，名古屋。

村地知子，後藤理絵，加納友子，中村絵実子，三和純子，村上佳奈子，我部山キヨ子：臍帯血採取・保存・移植に関する助産師の意識調査。第47回日本母性衛生学会総会・学術集会，2006，名古屋。

伊藤久美子，月僧厚子，我部山キヨ子，清野喜久美，瀧澤和子，平島功二：上の子立ち会い出産を経験した上の子の誕生児への反応—産褥1ヶ月の母親への意識調査より—。第47回日本母性衛生学会総会・学術集会，2006，名古屋。

千葉陽子，金岡 緑，我部山キヨ子，菅 佐和子：親の養育態度が子どもの対人態度や生き方志向に及ぼす影響（第1報）—大学生と父親との関連性。第47回日本母性衛生学会総会・学術集会，2006，名古屋。

金岡 緑，我部山キヨ子，菅 佐和子，千葉陽子：親の養育態度が子どもの対人態度や生き方志向に及ぼす影響（第2報）—大学生と母親との関連性。第47回日本母性衛生学会総会・学術集会，2006，神戸。

我部山キヨ子：夫立ち会い分娩における夫への支援に関する研究—夫の役割と妻の評価から—。第26回日本看護科学学会学術集会，2006，神戸。

宮崎つた子，本田育美，我部山キヨ子：中学生における健康行動と蓄積疲労の関連性。第26回日本看護科学学会学術集会，2006。

本田育美，宮崎つた子，我部山キヨ子：大学生における健康行動と蓄積疲労の関連性。第26回日本看護科学学会学術集会，2006，神戸。

鈴木真知子：中・四国地方を中心とした小児の自律に向けた在宅人工呼吸療養支援の評価。第16回日本小児看護学会学術集会，2006.7，横浜。

鈴木真知子：テーマセッション（地域・学校との医療・看護の連携）話題提供者。第16回日本小児看護学会学術集会，2006.7，横浜。

鈴木真知子：医療依存度の高い小児の自律に向けた在宅療養支援の在り方の検討—米国におけるモデルとなる事例検討から—。第26回日本看護科学学会，2006.12，神戸。

松本桃代，小笠原加代子，塚本（渡邊）浩子，永井泰

: 当院における PIH 予防を主とした至適体重増加の検討. 第10回日本病態栄養学会, 2006. 1, 横浜.

石田貞代, 望月好子, 塚本 (渡邊) 浩子, 佐藤千史: 褥婦への咀嚼指導の産後6ヶ月における有効性. 第20回日本助産学会, 2006. 3, 東京.

Fukuoka H, Tsukamoto (Watanabe) H, Yoshiike H, Nagai Y & Ogasawara K: Maternal nutrition inducing fetal imprinting for future health and disease. The Korean Nutrition Society Spring Symposium, 2006.5, Seoul.

塚本 (渡邊) 浩子, 福岡秀興, 永井 泰, 小笠原加代子: 妊娠中の脂質および血中ケトン体値の推移と出生時体重. 第30回日本産科婦人科栄養・代謝研究会, 2006. 8, 東京.

山谷育子, 塚本 (渡邊) 浩子, 福岡秀興, 石田裕美, 上西一弘: 中学高校生男女の脂質代謝と身体組成および生活習慣. 第30回日本産科婦人科栄養・代謝研究会, 2006. 8, 東京.

福岡秀興, 塚本 (渡邊) 浩子, 瀧本秀美, 吉池信男: 成人病胎児期発症 (起源) 説から妊婦栄養を考える. 第28回日本臨床栄養学会, 2006. 9, 東京.

検査技術科学コース

著 書

笹田昌孝: 顆粒球の生化学とエネルギー代謝. 浅野茂隆, 池田康夫, 内山 卓監修, 三輪血液病学. 第3版, 東京: 文光堂, 2006 ; 276-288.

笹田昌孝: 顆粒球の機能. 浅野茂隆, 池田康夫, 内山卓監修, 三輪血液病学. 第3版. 東京: 文光堂, 2006 ; 288-298.

笹田昌孝: 薬剤と血液疾患. 浅野茂隆, 池田康夫, 内山 卓監修, 三輪血液病学. 第3版. 東京: 文光堂, 2006 ; 1855-1866.

笹田昌孝: 高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン 第1版 (2002) 解説. 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編, 今日の治療指針2006年版. 東京: 医学書院, 2006 ; 1604-1608.

笹田昌孝: 適応疾患と治療 2) 重症感染症①血液系. 正岡 徹監修, 静注用免疫グロブリン製剤ハンドブック. 東京: メディカルレビュー社, 2006 ; 38-47.

笹田昌孝: 診断のポイント. 鎌谷直之編, 新しい診断と治療のABC 37 代謝4 高尿酸血症・痛風. 東京: 最新医学社, 2006 ; 71-76.

藤田正俊: 臓器移植患者をとりまく諸問題—身体的問題—. 櫻庭 繁, 林 優子編, いのちを伝える臓器移植看護. 大阪: メディカ出版, 2006 ; 92-95.

船渡忠男, 高橋美奈子: アンチセンス RNA テクノロジー (歴史的経緯, 臨床研究, パテント, 海外の研究動向など). RNA と創薬, 2006 ; 133-137.

杉本直三: 映像情報メディア年表: 3.2メディア工学 2.2節 医療におけるメディア処理. 映像情報メディア学会誌, 2006 ; 60(8) : 1222-1223.

池本正生, 深津敦司, 芝 紀代子: プルンツェル尿・体液検査—基礎と臨床—. 東京: 西村書店, 2006 ; 314.

上野智弘, 水崎隆雄: MRI 顕微鏡を用いた 3He-4He 混合液体の界面形状への Casimir 効果の検証. 第22回宇宙利用シンポジウム会議録. 2006 ; 22 : 168-171.

陳 夢元, 上野智弘, 福田耕治, 佐々木 豊, 松原明, 水崎隆雄: MRI 顕微鏡による 3He-4He 混合液体相分離面の可視化. 日本物理学会講演概要集, 2006 ; 61-1 : 799.

原 著

Shiba T, Kakuda S, Ishiguro M, Morita I, Oka S, Kawasaki T, Wakatsuki S, Kato R: Crystal structure of GlcAT-S, a human glucuronyltransferase, involved in the biosynthesis of the HNK-1 carbohydrate epitope. Proteins, 2006 ; 65 : 499-508.

Kizuka Y, Matsui T, Takematsu H, Kozutsumi Y, Kawasaki T, Oka S: Physical and functional association of glucuronyl transferases and sulfotransferase involved in HNK-1 biosynthesis. J Biol Chem, 2006 ; 281 : 13544-13551.

Yamada H, Arai T, Endo N, Yamashita K, Fukuda K, Sasada M, Uchiyama T: LPS-induced ROS generation and changes in glutathione level and their relation to the maturation of human monocyte-derived dendritic cells. Life Sci, 2006 ; 78 : 926-933.

Nishimura T, Nishida N, Komeda T, Fukuda Y, Ikai I, Yamaoka Y, Nakao K: Genome-wide semiquantitative microsatellite analysis of human hepatocellular carcinoma : discrete mapping of smallest region of overlap of recurrent chromosomal gains and losses. Cancer Genetics and Cytogenetics, 2006 ; 167 : 57-65.

Nishida N, Komatus Y, Komeda T, Fukuda Y: Interferon- α improves bone resorption and osteopenia in patients with chronic hepatitis C. Hepatology

Research, 2006 ; 34 : 222-227.

Mitani S, Fujita M, Shirakawa T : Circadian variation of cardiac autonomic nervous profile is affected in Japanese ambulance men with a working system of 24-hour shifts. *Int Arch Occ Env Hea*, 2006 ; 79 : 27-32.

Mitani S, Fujita M, Sakamoto S, Shirakawa T : Effect of autogenic training on cardiac autonomic nervous activity in high-risk fire service workers for posttraumatic stress disorder. *J Psychosom Res*, 2006 ; 60 : 439-444.

Yamanaka K, Fujita M, Doi K, Tsuneyoshi H, Yamazato A, Ueno K, Zen E, Komeda M : Multislice computed tomography accurately quantifies left atrial size and function after the MAZE procedure. *Circulation*, 2006 ; 114(Suppl I) : I-5-I-9.

Premaratne GU, Tambara K, Fujita M, Lin X, Kanemitsu N, Tomita S, Sakaguchi G, Nakajima H, Ikeda T, Komeda M : Repeated implantation is a more effective cell delivery method in skeletal myoblast transplantation for rat myocardial infarction. *Circ J*, 2006 ; 70 : 1184-1189.

Hirose K, Fujita M, Marui A, Arai Y, Sakaguchi H, Huang Y, Chandra BIR S, Tabata Y, Komeda M : Combined treatment of sustained-release basic fibroblast growth factor and sarpegrelate enhances collateral blood flow effectively in rabbit hindlimb ischemia. *Circ J*, 2006 ; 70 : 1190-1194.

Mitani S, Fujita M, Nakata K, Shirakawa T : Impact of post-traumatic stress disorder and job-related stress on burnout: a study of fire service workers. *J Emerg Med*, 2006 ; 31 : 7-11.

Hirose K, Marui A, Arai Y, Nomura T, Inoue S, Kaneda K, Kamitani T, Fujita M, Mitsuyama M, Tabata Y, Komeda M : Sustained-release vancomycin sheet may help to prevent prosthetic graft methicillin-resistant staphylococcus aureus infection. *J Vasc Surg*, 2006 ; 44 : 377-382.

三羽邦久, 藤田正俊, 三ツ浪健一, 吉田 章 : ビタバスタチンの脂質プロファイル改善効果. *診療と新薬*, 2006 ; 43 : 275-279.

三羽邦久, 藤田正俊 : 若年者における喫煙の血中ビタミン E 濃度に及ぼす影響の性差. *Journal of Cardiology*, 2006 ; 48 : 201-207.

藤田正俊, 船渡忠男, 池本正生, 木戸隆宏, 三谷智子, 竹田真由, 猪飼正希子, 貞任梨加 : 喫煙と DNA

障害マーカーであるヒト白血球 8-OHdG の関係. *平成17年度喫煙科学研究財団研究年報*, 2006 : 174-177.

船渡忠男, 竹田真由 : RNA 創薬のためのプラットフォーム技術—アンチセンス・リボザイム・DNA ギャップ・ガイド RNA・SMaRT について—. *分子細胞治療*, 2006 ; 5 : 427-435.

船渡忠男 : 遺伝子検査の新しい流れ. *検査と技術*, 2006 ; 34 : 1000-1006.

船渡忠男 : 遺伝子検査の新しい流れ. *日本臨床検査専門医会*, 2006 ; 24 : 26-30.

船渡忠男 : 遺伝子検査を中心に. *医療と検査機器・試薬*, 2006 ; 29 : 195-207.

Abe S, Funato T, Takahashi S, Yokoyama H, Yamamoto J, Tomiya Y, Yamada-Fujiwara M, Ishizawa K, Kameoka J, Kaku M, Harigae H, Sasaki T : Increased Expression of Insulin-Like Growth Factor I is Associated with Ara-C Resistance in Leukemia. *Tohoku J Exp Med*, 2006 ; 209 : 217-228.

船渡忠男 : 造血器腫瘍の検査—検査と臨床の対話. *日本検査血液学会会誌*, 2006 ; 1 : 158-159.

船渡忠男, 竹田真由 : アンチセンス創薬. *蛋白質 核酸 酵素 (PNE)*, 2006 ; 51 : 2515-2520.

船渡忠男, 竹田真由 : リアルタイム PCR による遺伝子定量法における精度保証. *臨床病理*, 2006 ; 54 : 910-917.

船渡忠男 : 血球分析検査を中心に. *医療と検査機器・試薬*, 2006 ; 29 : 293-307.

船渡忠男 : 食品細菌検査を中心に. *医療と検査機器・試薬*, 2006 ; 29 : 439-449.

船渡忠男 : 臨床検査に統計解析の普及を目指して. *医療と検査機器・試薬*, 2006 ; 29 : 557-571.

原口 亮, 中沢一雄, 杉本直三, 関口博之, 英保茂 : 冠動脈造影のパンorama動画像の作成. *生体医工学*, 2006 ; 44 : 107-113.

関口博之, 杉本直三, 川人充知, 李 鍾大, 中野顕, 藤田正俊, 英保茂 : シネアンジオ画像からの心筋灌流評価法. *信学技報*, 2006 ; 105 : 117-120.

Sekiguchi H, Sugimoto N, Kawahito M, Lee JD, Nakano A, Fujita M, Eiho S : An image processing on regular coronary angiograms for myocardial perfusion measurement. *Computers in Cardiology*, 2006 ; 33 : 821-824.

Urayama S, Sugimoto N, Jouo F, Yamamoto T, Azuma T, Tsutsumi S, Fukuyama H : Four-dimensional MR tagged imaging and image processing. *International Journal of Computer Assisted Radiology and Surgery*, 2006 ; 1-Suppl : 821-824.

Ooi Y, Satomura Y, Seki J, Yanagida T, Seiyama A : Optical coherence tomography revealed in vivo cortical plasticity of adult mice in response to peripheral neuropathic pain. *Neurosci Letter*, 2006 ; 397 : 35-39.

Seiyama A : Virtually cooperativity in myoglobin oxygen saturation curve in skeletal muscle in vivo. *Dyn Med* 5, 2006 ; 3 : 1-8.

Seki J, Satomura Y, Ooi Y, Yamagida T, Seiyama A : Velocity profiles in the rat cerebral microvessels measured by optical coherence tomography. *Clin Hemorheol Microcirc*, 2006 ; 34 : 233-239.

Sase I, Takatsuki A, Seki J, Yanagida T, Seiyama A : Noncontact Backscatter-Mode Near-Infrared Time-Resolved Imaging System : Preliminary Study for Functional Brain Mapping. *J Biomed Optics*, 2006 ; 11 : 054006 (1-7).

Murayama H, Igarashi M, Mori M, Fukuda Y, Ikemoto M, Nagata A : A sensitive ELISA for serum ornithine carbamoyltransferase utilizing the enhancement of immunoreactivity at alkaline pH. *Clin Chim Acta*, 2006 ; 368 : 125-130.

Yamamoto Y, Hata K, Ohsaki H, Yamanushi T, Shiooka T, Nakano M, Hirakawa E : The quantitative mRNA detection of podoplanin in body cavity fluids. *Kagawa Journal of Obstetrics and Gynecology*, 2006 ; 8 : 19-22.

平川栄一郎, 山本康子, 塩岡忠夫, 白石 誠, 中野正行, 白川敦子, 伊藤信行, 岡田正則, 小野和恵 : 体腔液細胞診を用いたテロメラーゼ活性と hTERT mRNA の発現. *香川県支部会報*, 2006 ; 18 : 16-18.

総説 (雑誌の依頼原稿等)

木塚康彦, 岡 昌吾 : GlcAT-P, GlcAT-S と Sulfo-T との複合体の形成と活性の増強. 特定領域研究グライコミックスの歩み, 2006 ; 8.

笹田昌孝, 伊藤洋志, 山下浩平 : 薬剤による白血球機能障害. *血液フロンティア*, 2006 ; 16 : 1625-1630.

幣 憲一郎, 稲垣暢也, 笹田昌孝 : 高尿酸血症・痛風患者の栄養管理今昔. *医薬の門*, 2006 ; 46 : 278-282.

笹田昌孝, 山下浩平 : 高尿酸血症の治療. *治療*, 2006 ; 88 : 2697-2701.

笹田昌孝 : 望ましい医療人の育成に向けて. *京大白菊*, 2006 ; 45 : 6-8.

池本正生, 伊藤洋志, 山本康子 : プルンツェル 尿・体腔液検査 基礎と臨床. 西村書店.

講演

Oka S, Kizuka Y, Kakuda S, Morita I, Yamamoto S, Kawasaki T : Function and Regulation of the HNK-1 Carbohydrate in the Nervous System. *GlycoT 2006 5th International Symposium on Glycosyltransferases*, 2006.6, Tsukuba.

岡 昌吾 : HNK-1 糖鎖の機能. 第4回糖鎖科学コンソーシアムシンポジウム, 2006.10, 東京.

笹田昌孝 : 「健康都市一長浜」に向けて. 0次予防健康づくり推進フォーラム 基調講演, 2006.1, 長浜.

笹田昌孝 : 健康づくり. 大阪国際サイエンスクラブ第89回技術サロン, 2006.2, 大阪.

笹田昌孝 : 健康づくり. 第11回神鋼病院院内合同研究発表会特別講演, 2006.5, 神戸.

笹田昌孝 : 健康づくりの京大方式. 平成18年度関西六成会・中場会 第16回大会講演会, 2006.6, 京都.

笹田昌孝 : 健康づくりと医療人のこれから. 京丹後市講演会, 2006.7, 京丹後.

笹田昌孝 : 望ましいチーム医療に向けて. 第10回周術期管理と急性浄化研究会 教育講演, 2006.10, 静岡.

笹田昌孝 : 好中球の功と罪. 第17回静岡県血液疾患研究会特別講演, 2006.10, 静岡.

笹田昌孝 : ヒトにおける薬物誘発性血液疾患. 日本毒性病理学会教育委員会第7回教育セミナー, 2006.11, 名古屋.

笹田昌孝 : 日本人の健康をつくる 望ましい医療人をめざして一. 愛媛県立医療技術大学, 2006.11.

藤田正俊 : ハイリスク患者に対するスタチンの使い分けについて～脂溶性, 水溶性スタチンとイベントとの関係～. 第49回日本糖尿病学会年次学術集会モーニングセミナー5, 2006.5, 東京.

学会発表

Kawasaki T, Ma BY, Kawasaki N, Oka S : A multifunctional C-type lectin, mannan-binding protein. Interaction with various ligands. 20th IUBMB

International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, 2006.6, Kyoto.

Kizuka Y, Maeda N, Kawasaki N, Kawasaki T, Oka S: A unique type of HNK-1 carbohydrate expressed on phosphacan is biosynthesized by GlcAT-P. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, 2006.6, Kyoto.

Baba M, Ma BY, Yukari M, Kawasaki N, Hirano M, Kawasaki N, Oka S, Kawasaki T: The lectin jacalin induces T lymphocyte activation through CD45 signaling. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, 2006.6, Kyoto.

Hirano M, Ma YB, Kawasaki N, Okimura K, Kawasaki N, Oka S, Kawasaki T: Mannan-binding protein binding to metalloproteases meprin α and β results in the proteolytic activity inhibition and the complement activation. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, 2006.6, Kyoto.

Morita I, Shiba T, Kakuda S, Oka S, Kawasaki T, Watatsuki S, Kato R: Structural and Biochemical Studies on Human Glucuronyltransferase, GlcAT-S, Involved in the Biosynthesis of the Carbohydrate HNK-1. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, 2006.6, Kyoto.

Nonaka M, Ma BY, Otani M, Yamamoto A, Murata M, Ito Y, Kawasaki N, Oka S, Kawasaki T: The physiological significance of intracellular mannan-binding protein. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, 2006.6, Kyoto.

殿山泰弘, 安西大輔, 大上志穂, 川崎敏祐, 岡昌吾: メダカ胚発生に関わる糖転移酵素 B4GALT2 の機能解析. 日本発生生物学会第39回大会, 2006. 5, 広島.

安西大輔, 殿山泰弘, 大上志穂, 川崎敏祐, 岡昌吾: メダカを用いた HNK-1 糖鎖の機能解析. 日本発生生物学会第39回大会, 2006. 5, 広島.

森田一平, 角田品子, 山本修平, 川崎敏祐, 岡昌吾: 神経可塑性における HNK-1 糖鎖機能に関する研究. 第26回日本糖質学会年会, 2006. 8, 仙台.

小林恭子, 陣内俊和, 角田品子, 木塚康彦, 高橋智, 川崎敏祐, 岡昌吾: HNK-1 糖鎖生合成酵素 GlcAT-S 遺伝子欠損マウスの作製とその生化学的解析. 第26回日本糖質学会年会, 2006. 8, 仙台.

笹田昌孝: 炎症における好中球の二面性. 第46回日本呼吸器学会学術講演会 特別講演, 2006. 6, 東京.

常峰紘子, 山下浩平, 荒井俊之, 笹田昌孝, 内山卓: 細胞透過性プテリン化合物の光化学反応が誘導する皮膚T細胞性リンパ腫細胞株における細胞死の解析. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 2006. 10, 福岡.

宮原裕子, 山下浩平, 三好隆史, 高折晃史, 笹田昌孝, 内山卓: 日本における家族性地中海熱の症例検討. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 2006. 10, 福岡.

三好隆史, 山下浩平, 田嶋政治, 山本孝吉, 笹田昌孝: 多発性骨髄腫の経過中に化膿性膝関節炎で発症した肺炎球菌感染症の一例. 第49回日本感染症学会中日本地方会総会, 2006. 10, 金沢.

福田善弘: B型肝炎と診断後に HCV 感染が判明した3症例. 第8回癸肝臓研究会, 2006. 10, 京都.

山東剛裕, 勝島慎二, 米田俊貴, 福田善弘: C型慢性肝炎進行例に対する PEG/IFN 治療成績と肝疾患入院イベントの制御. 第8回癸肝臓研究会, 2006. 10, 京都.

Terasaki F, Shimomura H, Tsukada B, Ohtsuka K, Katashima T, Ohtsuka K, Kitaura Y, Ikemoto M, Fujita M: Enhanced expression of myeloid-related protein complex (MRP8/14) in macrophages and giant cells in granulomas of active cardiac sarcoidosis. The 70th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2006.3, Nagoya.

Arai Y, Fujita M, Marui A, Hirose K, Sakaguchi H, Huang Y, Bir SC, Ikeda T, Tabata Y, Komeda M: Combined treatment of sustained-release basic fibroblast growth factor and heparin enhances angiogenesis in hypercholesterolemic mouse hindlimb ischemia. The 70th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2006.3, Nagoya.

Miwa K, Fujita M: Smoking-induced oxidative stress is significant in younger women. The 70th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2006.3, Nagoya.

Matsumoto T, Fujita M, Horie M, Tarutani Y, Yamane

T, Takashima H, Nakae I, Matsuo S, Soma A: The impact of whole-body, periodic acceleration on vascular endothelial function and nitric oxide release. The 70th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2006.3, Nagoya.

Morimoto T, Kawamura T, Takaya T, Wada H, Sunagawa Y, Ikemoto M, Fujita M, Kita T, Hasegawa K: A natural p300-specific histone acetyltransferase inhibitor, curcumin, represses hypertrophic responses in cardiac myocytes and prevents the development of hypertension-induced heart failure in salt-sensitive Dahl rats. Scientific Sessions 2006 of the American Heart Association, 2006.11, Chicago.

Lin X, Ishii T, Matsuoka S, Jo H, Tambara K, Yamamoto M, Fujita M, Ikeda T, Noma A, Komeda M: Control-release of MMP-1 plasmid DNA improved contractility and Na/Ca exchange of cardiomyocytes isolated from rat chronic myocardial infarction heart. Scientific Sessions 2006 of the American Heart Association, 2006.11, Chicago.

Morimoto T, Kita T, Kawamura T, Wada H, Sunagawa Y, Hasegawa K, Fujita M: p-300-mediated inhibition of doxorubicin-induced myocardial cell apoptosis involves ubiquitin-dependent p53 degradation. Scientific Sessions 2006 of the American Heart Association, 2006.11, Chicago.

Bir SC, Fujita M, Hirose K, Marui A, Arai Y, Sakaguchi H, Esaki J, Huang Y, Ikeda T, Tabata Y, Komeda M: New therapeutic approach for impaired arteriogenesis in diabetic mouse hindlimb ischemia. Scientific Sessions 2006 of the American Heart Association, 2006.11, Chicago.

Katashima T, Terasaki F, Shimomura H, Otsuka K, Tsukada B, Murakami S, Kitaura Y, Ikemoto M, Fujita M: Enhanced expression of myeloid-related protein complex (MRP 8/14) predicts the severity and risk of complications in acute myocardial infarction. Scientific Sessions 2006 of the American Heart Association, 2006.11, Chicago.

Wada H, Ono K, Satoh N, Kameda S, Shinjo D, Abe Y, Kawamura T, Morimoto T, Nakano T, Shimatsu A, Fujita M, Hasegawa K: Soluble Flk-1 and soluble Tie-2, endogenous inhibitors of endothelial cell-specific angiogenic signals, are increased in serum of patients with metabolic syndrome. Scientific Sessions 2006 of the American Heart Association, 2006.11, Chicago.

船渡忠男, 竹田真由, 池本正生, 藤田正俊: 喫煙障害における酸化ストレスおよび遺伝子多型. 第13回日本遺伝子診療学会, 2006. 7, 東京.

船渡忠男, 竹田真由: ストレスと遺伝子多型. 第26回日本臨床化学会, 2006. 9, 東京.

Funato T, Takeda M: Detection of Drug Resistance in Leukemia. The 9th International Congress of the Asian Society of Clinical Pathology and Laboratory Medicine, 2006.10, Japan.

船渡忠男, 竹田真由, 七澤雅治: 自動核酸抽出機 BioRobot EZ1 による全血からの RNA 抽出の検討. 第38回日本臨床検査自動化学会, 2006. 10, 神戸.

船渡忠男: 血液細胞を用いた遺伝子検査標準化に向けて. 第38回日本臨床検査自動化学会, 2006. 10, 神戸.

船渡忠男: 造血管腫瘍における抗がん剤耐性獲得機序に関する研究. 第57回日本電気泳動学会総会, 2006. 10, 浜松.

船渡忠男: アンチセンス RNA の世界. 第57回日本電気泳動学会総会, 2006. 10, 浜松.

竹田真由, 船渡忠男: PAXgene Blood RNA System を用いた血液中 RNA における安定化の検討. 日本臨床化学会近畿支部総会, 2006. 12, 大阪.

杉本直三, 関口博之, 英保茂, 松田哲也, 水田 忍, 浦山慎一, 今村裕之: 時系列病理形態理解に基づく知的 CAD. 多次元医用画像の知的診断支援シンポジウム, 2006. 1, 京都.

杉本直三, 関口博之, 英保茂, 水田 忍, 松田哲也, 浦山慎一: 時系列病理形態理解に基づく知的 CAD. JRC2006, 2006. 4, 横浜.

杉本直三, 今村裕之, 関口博之, 英保茂, 水田 忍, 松田哲也, 浦山慎一: 時系列病理形態理解に基づく知的 CAD. コンピュータ支援画像診断学会大会, 東京, 2006; 10: 27-29.

Seiyama A, Seki J: Concurrent measurement of human brain function using fNIRS-fMRI and fNIRS-EEG. The 29th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, 2006.7, Kyoto.

精山明敏, 大井康浩, 関 淳二: 血行動態を反映した脳活動計測法 (fNIRS and fMRI) の神経生理学的背景. 第11回認知神経科学会, 2006. 7, 秋田.

池本正生, 伊藤洋志, 山本康子, 江川裕人, 村山寛, 戸谷誠之, 藤田正俊: リコンビナント S100A8 お

よび S100A9 蛋白の大腸菌による発現とその機能的役割について (その 3). 第46回日本臨床化学学会年会, 2006.

伊藤洋志, 山下浩平, 山本徹也, 笹田昌孝: 好中球の遊走と活性酸素産生を制御する purine nucleosides の作用機序について. 第39回日本痛風・核酸代謝学会総会, 2006. 2, 京都.

伊藤洋志, 山下浩平, 三好隆史, 常峰 (山田) 紘子, 山本孝吉, 笹田昌孝: 細菌感染巣における好中球機能制御—プリン体の作用機構—. 第80回日本感染症学会総会・学術講演会, 2006. 4, 東京.

伊藤洋志, 山下浩平, 三好隆史, 岡 諭, 山本徹也, 山本孝吉, 内山 卓, 笹田昌孝: プリン体のひとつ, inosine による炎症制御機構—好中球遊走および O_2 —放出の抑制作用—. 第68回日本血液学会総会・第48回日本臨床血液学会総会, 2006. 10, 福岡.

伊藤洋志, 山下浩平, 三好隆史, 山本孝吉, 笹田昌孝: 細菌感染巣における好中球機能制御—イノシンの役割について—. 第49回日本感染症学会中日本地方会総会, 2006. 10, 金沢.

大内里恵, 長谷川和子, 谷澤純子, 山西利恵, 木内茂巳, 中野正行, 池田宏国, 山本康子, 平川栄一郎: 盲腸原発内分泌細胞癌の 1 例. 日本臨床細胞学会, 2006. 11.

上野智弘, 水崎隆雄: 「MRI 顕微鏡を用いた $3He-4He$ 混合液体の界面形状 への Casimir 効果の検証」第22回宇宙利用シンポジウム. 日本学術会議, 2006. 1, 東京.

陳 夢元, 上野智弘, 福田耕治, 佐々木 豊, 松原明, 水崎隆雄: MRI 顕微鏡による $3He-4He$ 混合液体相分離面の可視化. 平成17年度低温物質科学研究センター研究成果発表会, 2006. 3, 京都.

陳 夢元, 上野智弘, 福田耕治, 佐々木 豊, 松原明, 水崎隆雄: MRI 顕微鏡による $3He-4He$ 混合液体相分離面の可視化. 日本物理学会第61回年次大会, 2006. 3, 愛媛.

上野智弘, 福田耕治, 陳 夢元, 佐々木 豊, 松原明, 水崎隆雄: MRI 顕微鏡による $3He-4He$ 混合液体相分離界面の可視化. 日本分子イメージング学会第 1 回総会, 2006. 5, 京都.

水崎隆雄, 上野智弘: MRI 顕微鏡を用いた $3He-4He$ 混合液体の界面形状への Casimir 効果の検証. 宇宙環境利用に関する公募地上研究成果報告会, 2006. 7, 東京.

Chen MY, Ueno T, Fukuda K, Sasaki Y, Matsubara A, Mizusaki T: Development of MRI Microscope and Visualization of Phase-Separated $3He-4He$ Mixtures. International Symposium on Quantum Fluids and Solids (QFS2006), 2006.8, Kyoto.

Ueno T, Chen MY, Fukuda K, Sasaki Y, Matsubara A, Mizusaki T: Development of MRI Microscope and Visualization of Phase-Separated $3He-4He$ Mixtures. KAIST-Kyoto University Joint Workshop on Magnetic Resonance and Low Temperature Physics, 2006.10, Daejeon.

上野智弘, 陳 夢元, 小川俊彦, 福田耕治, 佐々木 豊, 松原 明, 水崎隆雄: MRI 顕微鏡の開発とヘリウム混合液体の相分離界面形状の精密測定. 財団法人日本宇宙フォーラム 平成18年度低温WG「微小重力下における液体・固体ヘリウム」, 2006. 12, 東京.

Ueno T, Chen MY, Fukuda K, Sasaki Y, Matsubara A, Mizusaki T: Development of Ultra-high resolution MRI and studies on the shape of phase-separated $3He-4He$ mixtures near the tri-critical point. the Awaji Conference '06 on super clean materials, 2006.12, Awaji.

Ueno T, Chen MY, Fukuda K, Sasaki Y, Matsubara A, Mizusaki T: Development of Ultra-high resolution MRI and studies on the shape of phase-separated $3He-4He$ mixtures near the tri-critical point. 健康科学研究交流会, 2006. 1, 京都.

リハビリテーション科学コース

理学療法学講座

著 書

市橋則明, 伊吹哲子: 下腿, 足関節, 足部. 運動器リハビリテーションの機能評価Ⅱ. 東京: エルゼビアジャパン, 2006; 277-353.

市橋則明, 他多数: 内山靖編集, 理学療法学辞典. 東京: 医学書院, 2006.

玉木 彰, 陳 和夫, 三嶋理晃: 高齢者への包括的アプローチとリハビリテーション. 大内尉義監修, 呼吸不全のリハビリテーション. 東京: メジカルビュー社, 2006; 224-233.

玉木 彰: 血液ガス・肺機能検査. 高橋仁美他編, 動画でわかる呼吸リハビリテーション. 東京: 中山書店, 2006; 53-64.

玉木 彰訳: 自律訓練法と視覚心像化. 漸進的筋弛緩法. 服部祥子他監訳, 包括的ストレスマネジメント. 東京: 医学書院, 2006; 133-152.

原 著

Nakanishi R, Shimizu M, Mori M, Akiyama H, Okudaira S, Otsuki B, Hashimoto M, Higuchi K, Hosokawa M, Tsuboyama T, Nakamura T: Secreted frizzled-related protein 4 is a negative regulator of peak BMD in SAMP6 mice. *J Bone Miner Res*, 2006; 21: 1713-1721.

鈴木達也, 市橋則明: 円背患者に対して体幹股関節屈筋トレーニングを試み, 姿勢の改善がみられた一症例を通して. *理学療法京都*, 2006; 35: 81-85.

Kuroki H, Nakagawa Y, Mori K, Kobayashi M, Yasura K, Okamoto Y, Mizuno Y, Ando K, Ikeuchi K, Nakamura T: Maturation-dependent change and regional variations in acoustic stiffness of rabbit articular cartilage: an examination of the superficial collagen-rich zone of cartilage. *Osteoarthritis & Cartilage*, 2006; 14: 784-792.

Yasura K, Nakagawa Y, Kobayashi M, Kuroki H, Nakamura T: Mechanical and Biochemical Effect of Monopolar Radiofrequency Energy on Human Articular Cartilage: An In Vitro Study. *Am J Sports Med*, 2006; 34: 1322-1327.

Mori K, Nakagawa Y, Kuroki H, Ikeuchi K, Nakashima K, Mine T, Nakamura T, Kawai S, Saito T: Non-contact evaluation for articular cartilage using ultrasound. *JSME International Journal, Series*, 2006; A49: 242-249.

森 浩二, 中川泰彰, 黒木裕士: 超音波プローブを用いた関節軟骨の力学特性評価. *計測と制御*, 2006; 45: 948-953.

Tamaki A, Chin K, Mishima M, Bando T, Wada H: Exercise Capacity and Activities of Daily Living in Lung Transplant Recipients. *Respirology*, 2006; 11: 248-249.

Fujiyama F, Unzai T, Nakamura K, Nomura S, Kaneko T: Difference in organization of corticostriatal and thalamostriatal synapses between patch and matrix compartment of rat neostriatum. *European Journal of Neuroscience*, 2006; 24: 2813-2824.

Sakakima H, Kamizono T, Matsuda F, Izumo K, Ijiri K, Yoshida Y: Midkine and its receptor in regenerating rat skeletal muscle after bupivacaine injection. *Acta Histochemica*, 2006; 108: 357-364.

出見世真人, 玉木 彰, 永淵輝佳, 永富孝幸: 禁煙が

呼吸機能および運動能力に及ぼす影響. *三菱京都病院医学総合雑誌*, 2006; 13: 33-38.

池添冬芽, 浅川康吉, 島 浩人, 坪山直生: 虚弱高齢者の転倒恐怖感に關与する因子の検討. *運動・物理療法*, 2006; 17: 54-60.

池添冬芽, 浅川康吉, 島 浩人: 3年間の筋力トレーニングが高齢者の体力および移動動作能力に及ぼす影響. *健康科学*, 2006; 3: 1-5.

松本大輔, 中本 順, 北村和也, 岡部修一, 池添冬芽, 坂元真由美, 谷口 洋, 傳 秋光: 体型・身体組成からみた肥満症とメタボリックシンドローム. *神大保健紀要*, 2006; 22: 13-22.

Ohata K, Tsuboyama T, Ichihashi N, Minami S: Measurement of muscle thickness as quantitative muscle evaluation for adults with severe cerebral palsy. *Phys Ther*, 2006; 86: 1231-1239.

大畑光司, 市橋則明: 大腿四頭筋の筋疲労による筋活動比の変化について. *健康科学*, 2006; 2: 15-19.

Tateuchi H, Yoneda T, Tanaka T, Kumada H, Kadota M, Ohno H, Tanaka K, Yamaguchi J: Postural control for initiation of lateral step and step-up motions in young adults. *J Phys Ther Sci*, 2006; 18: 49-55.

建内宏重, 米田稔彦, 田中貴広, 熊田 仁, 櫻田眞弘, 大野博司, 田中一成, 山口 淳: 側方へのステップ動作開始時における姿勢制御の加齢による変化. *理学療法科学*, 2006; 21: 267-273.

総説(雑誌の依頼原稿等)

市橋則明, 大畑光司, 北潔: 変形性関節症の保存療法 変形性膝関節症に対する運動療法. *関節外科*, 2006; 25: 512-519.

市橋則明: 筋機能トレーニングの理論と実際. *理学療法研究長野*, 2006; 34: 37-43.

玉木 彰, 陳 和夫: 人工呼吸管理中の呼吸理学療法. *呼吸器科*, 2006; 9: 522-530.

玉木 彰: 胸・腹部外科手術前後の呼吸理学療法. *理学療法福井*, 2006; 10: 17-24.

玉木 彰, 三嶋理晃: 呼吸リハビリテーション—COPDを中心に—. *Aging & Health*, 2006; 15: 24-27.

玉木 彰: 消化器ナースのお助けクリニック. *消化器外科*, 2006; *Nursing*; 11: 91-98.

大畑光司, 市橋則明: スポーツ傷害予防と着地サー

業績リスト

フェイス. 体育の科学, 2006 ; 56 : 895-899.

大畑光司, 市橋則明: 中枢神経疾患患者の歩行に対する課題特異的アプローチ. 理学療法京都, 2006 ; 35 : 25-29.

田中貴広, 建内宏重: 関節病態運動学 4 股関節の運動学. 理学療法, 2006 ; 23 : 1642-1650.

大野博司, 徳富真洋, 建内宏重, 佐藤久友, 山口淳, 市川俊介: 痛みに対する装具療法. 理学療法, 2006 ; 23 : 206-211.

講演

市橋則明: 理学療法におけるパラダイムシフト. 兵庫県西播磨整形リハビリテーション研修会, 2006. 1, 兵庫.

市橋則明: 筋の機能とトレーニング. 大分県理学療法士会33回研修会, 2006. 1, 大分.

市橋則明: 理学療法におけるパラダイムシフトパートⅡ. 兵庫県理学療法士会但馬ブロック研修会, 2006. 2, 兵庫.

市橋則明: 筋の機能とトレーニング. 神戸総合医療専門学校卒業後研修会, 2006. 4, 兵庫.

市橋則明: 高齢者の体力づくりと転倒予防. 阿彌陀寺開山忌法要, 2006. 5, 奈良.

市橋則明: 理学療法におけるパラダイムシフト—理学療法の定説を問う—. 京都府理学療法士会新人教育基礎講座, 2006. 6, 京都.

市橋則明: 歩行のバイオメカニクスとトレーニング. 第3回歩行リハビリテーションセミナー, 2006. 7, 名古屋.

市橋則明: 歩行のバイオメカニクスとトレーニング. 第4回歩行リハビリテーションセミナー, 2006. 7, 東京.

市橋則明: 歩行のバイオメカニクスとトレーニング. 第5回歩行リハビリテーションセミナー, 2006. 8, 熊本.

市橋則明: 筋の機能とトレーニング. 文京学院大学ブラッシュアップセミナー, 2006. 9, 東京.

市橋則明: 高齢者の運動機能とトレーニング. 第61回日本体力医学会シンポジウム シンポジスト, 2006. 9, 兵庫.

市橋則明: 下肢の運動学と理学療法. 第835回日本理学療法士協会現職者講習会, 2006. 10, 前橋.

市橋則明: 歩行のバイオメカニクスと体重免荷歩行トレーニング. 北九州歩行リハビリテーションセミナー, 2006. 10, 福岡.

市橋則明: スポーツ傷害に対する筋機能トレーニング. アスリートケア研究会研修会, 2006. 10, 大阪.

玉木 彰: 胸腹部外科手術前後の呼吸理学療法. 福井県理学療法士会研修会講演, 2006. 2, 福井.

玉木 彰: ICU における呼吸理学療法. 秋田呼吸ケア懇話会, 2006. 3, 秋田.

玉木 彰: 臓器移植における呼吸理学療法. 呼吸理学療法セミナー, 2006. 7, 札幌.

玉木 彰: 肺移植における呼吸理学療法. 第16回日本呼吸管理学会 教育講演, 2006. 7, 札幌.

玉木 彰: 呼吸理学療法のためのフィジカルアセスメント. 日本理学療法士協会現職者講習会 呼吸理学療法の理論と実際, 2006. 9, 京都.

玉木 彰: 外科術後の呼吸理学療法. 日本理学療法士協会現職者講習会 呼吸理学療法の理論と実際, 2006. 9, 京都.

玉木 彰: 糖尿病患者を合併した呼吸器疾患患者に対する理学療法. 第41回全国研修会教育講演, 2006. 10, 長崎.

玉木 彰: 加齢による運動機能の低下とその対策. 岐阜県可児市高齢者大学 講演, 2006. 10, 岐阜.

玉木 彰: 人工呼吸管理中における理学療法士の役割. 人工呼吸器公開セミナー, 2006. 10, 名古屋.

玉木 彰: 術前・術後の呼吸リハビリテーションの最前線. 信州呼吸器セミナー 特別講演, 2006. 11, 松本.

池添冬芽: 転ばぬ先の予防. 京都市東山区民公開講座, 2006. 7, 京都.

池添冬芽: 高齢者の転倒予防とトレーニング. 京都府理学療法士会北部ブロック主催研修会, 2006. 10, 京都.

池添冬芽: 体幹・下肢筋の筋力トレーニング法～筋電図学的研究から知り得た知見～. 第46回近畿理学療法学会大会 SIG, 2006. 11, 奈良.

池添冬芽: 転倒リスクを中心としたアセスメントツールとアセスメントに基づいたトレーニング処方および実際. 平成18年介護予防サービス従事者研修会, 2006. 12, 京都.

大畑光司：運動学習トレーニング。日本理学療法士協会現職者講習会「下肢の運動学と理学療法」, 2006. 10, 京都。

大畑光司：Body Weight Support treadmill training の実際。第3回歩行リハビリテーションセミナー, 2006. 7, 名古屋。

大畑光司：Body Weight Support treadmill training の実際。第4回歩行リハビリテーションセミナー, 2006. 7, 東京。

大畑光司：Body Weight Support treadmill training の実際。第5回歩行リハビリテーションセミナー, 2006. 8, 熊本。

建内宏重：股関節の運動学とトレーニング。日本理学療法士協会現職者講習会「下肢の運動学と理学療法」, 2006. 10, 京都。

建内宏重：股関節機能障害に対する評価・治療の視点。近江理学療法勉強会 第3回特別講演, 2006. 7, 滋賀。

学会発表

Nakanishi R, Shimizu M, Mori M, Otsuki B, Okudaira S, Higuchi K, Nakamura T, Tsuboyama T: Chromosome 13 locus for peak femoral bone mineral density modulates bone formation in mice. 33rd European Symposium on Calcified tissues, 2006.5, Prague.

Nakanishi R, Shimizu M, Mori M, Otsuki B, Okudaira S, Higuchi K, Nakamura T, Tsuboyama T: Chromosome 13 locus for peak femoral bone mineral density modulates bone formation in mice. 3rd International Osteoporosis Foundation Asia-Pacific Regional Conference on Osteoporosis & 16th Annual Meeting of the Australian and New Zealand Bone and Mineral Society, 2006.10, Port Douglas, Queensland.

中山富貴, 坪山直生, 保坂泰介, 戸口田淳也, 中村孝志：デスマイドの自然経過。第39回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2006. 7, 札幌。

中山富貴, 保坂泰介, 戸口田淳也, 坪山直生, 中村孝志：軟部悪性腫瘍の治療成績。第39回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2006. 7, 札幌。

保坂泰介, 中山富貴, 坪山直生, 中村孝志, 戸口田淳也：5年以上無病期間を維持した後に再燃した骨肉腫の3例。第39回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2006. 7, 札幌。

中西りか, 清水基行, 大槻文悟, 奥平修三, 森 政之, 樋口京一, 坪山直生, 中村孝志：マウス第13番染色体上に存在する骨量制御遺伝子座は骨形成を調節する。第24回日本骨代謝学会学術集会, 2006. 7, 東京。

保坂泰介, 中山富貴, 中村孝志, 坪山直生, 戸口田淳也：大腿骨遠位部骨腫瘍に対する K-MAX KNEE system の使用経験。中部日本整形外科学会第107回学術集会, 2006. 10, 兵庫。

中西りか, 清水基行, 森 政之, 大槻文悟, 奥平修三, 樋口京一, 中村孝志, 坪山直生：マウス第13番染色体上骨量制御遺伝子座の解析。第8回日本骨粗鬆症学会, 2006. 10, 東京。

大槻文悟, 清水基行, 奥平修三, 中西りか, 坪山直生, 中村孝志：マウス第11番染色体上には大腿骨断面の形状を規定する QTL が存在する。第21回日本整形外科学会基礎学術集会, 2006. 10, 長崎。

雛田知子, 森本 剛, 長尾能雅, 坪山直生：大学病院における転倒・転落対策 (1)：転倒・転落アセスメントスコアと転倒・転落の関連。医療の質・安全学会第1回学術集会, 2006. 11, 東京。

森本 剛, 雛田知子, 長尾能雅, 坪山直生：大学病院における転倒・転落対策 (2)：病棟特性に基づく病棟転倒リスクスコアの開発。医療の質・安全学会第1回学術集会, 2006. 11, 東京。

木原健二, 大畑光司, 中 徹, 向井公一, 春田大志, 生友尚志, 坪山直生：重度脳性麻痺者の尖足と踵骨 stiffness 値の関係第41回日本理学療法学会学術大会, 2006. 5, 前橋。

渡邊明代, 大畑光司, 春田大志, 前田和之, 中徹, 坪山直生：成人脳性麻痺者の骨強度と筋厚・筋緊張との関係。第41回日本理学療法学会学術大会, 2006. 5, 前橋。

南 哲, 大畑光司, 橋本千恵子, 野上曜子, 上田純恵, 坪山直生：成人脳性麻痺者の脊柱側弯の特徴—姿勢自立度および背筋群の筋厚と運動機能との関連性—。第41回日本理学療法学会学術大会, 2006. 5, 前橋。

矢野生子, 大畑光司, 向井幸一, 宇佐美勝也, 船戸正雄, 坪山直生：成人脳性麻痺者における姿勢と呼吸の関係。第41回日本理学療法学会学術大会, 2006. 5, 前橋。

藤山文乃, 雲財 知, 中村公一, 野村 巖, 金子武嗣：ラット線条体パッチ・マトリックス構造に対する大脳皮質および視床入力の違いを形態的に解析する。第29回日本神経科学大会, 2006. 7, 京都。

萩原三義, 野村 巖: 東洋医学としての鍼灸医療における解剖学的知識と研究の意味と位置付け. 第5回コ・メディカル形態機能学会, 2006. 9, 山形.

市橋則明, 池添冬芽, 大畑光司, 坪山直生: 高齢者に対する立位ステップテストの有効性. 第41回日本理学療法学会大会, 2006. 5, 前橋.

市橋則明, 池添冬芽, 大畑光司: 安静時と収縮時における大腿四頭筋の筋厚変化量の測定によって筋力発揮水準の推定は可能か? 第41回日本理学療法学会大会, 2006. 5, 前橋.

岩下篤司, 市橋則明, 池添冬芽, 大畑光司: ペダリング動作とトレッドミル歩行およびスクワット動作における下肢筋の筋活動量比率の検討. 第41回日本理学療法学会大会, 2006. 5, 前橋.

森 公彦, 市橋則明, 南角 学, 宮坂淳介, 池添冬芽, 中村孝志: スクワット肢位の筋電図学的分析 足圧中心位置と骨盤前後傾斜の影響. 第41回日本理学療法学会大会, 2006. 5, 前橋.

森 公彦, 大畑光司, 南角 学, 宮坂淳介, 市橋則明, 中村孝志: 底屈制動短下肢装具歩行における筋電図学的検討. 第61回日本体力医学会大会, 2006. 9, 神戸.

宮坂淳介, 市橋則明, 森 公彦, 中村孝志: 血流制限下での筋力トレーニングの筋電図学的分析 収縮様式による違い. 第41回日本理学療法学会大会, 2006. 5, 前橋.

福元喜啓, 大畑光司, 市橋則明, 塚越 果, 木内隆裕, 田中 泉, 南 昌宏: 人工股関節全置換術後の膝伸展筋力回復における角度特性について. 第41回日本理学療法学会大会, 2006. 5, 前橋.

西村 純, 市橋則明, 日下部虎夫, 奥田良樹: ラグビー選手のハムストリングスの肉離れと筋力・運動能力・柔軟性の関係. 第41回日本理学療法学会大会, 2006. 5, 前橋.

西村 純, 市橋則明, 大畑光司, 中村孝志: ラグビー選手のハムストリングスの肉離れに影響を及ぼす因子の検討. 第61回日本体力医学会大会, 2006. 9, 神戸.

宮坂淳介, 市橋則明, 森 公彦, 中村孝志: 体幹前傾角度および足圧中心がスクワット動作時の筋活動に及ぼす影響. 第61回日本体力医学会大会, 2006. 9, 神戸.

森 公彦, 南角 学, 三戸由美子, 市橋則明, 川那辺圭一, 中村孝志, 坪山直生: 変形性股関節症患者の腰

椎アライメントが運動機能に及ぼす影響. 第16回京都府理学療法士学会, 2006. 2, 京都.

宮坂淳介, 市橋則明, 中村孝志: 血流制限下での筋力トレーニング時の筋活動量 圧迫条件および収縮様式による影響. 第16回京都府理学療法士学会, 2006. 2, 京都.

櫻木一成, 市橋則明, 西村 純, 奥田良樹, 日下部虎夫: OKC での等尺性膝屈伸筋力と CKC での等尺性脚伸展力およびペダリング力の関係. 第16回京都府理学療法士学会, 2006. 2, 京都.

西村 純, 市橋則明, 奥田良樹, 日下部虎夫: ジャンプトレーニングおよび CKC 筋力トレーニングがパフォーマンスと OKC での膝屈伸筋力に与える影響. 第16回京都府理学療法士学会, 2006. 2, 京都.

三戸由美子, 南角 学, 市橋則明, 川那辺圭一, 中村孝志: 股関節疾患患者の単関節および多関節運動における下肢筋力と歩行能力との関連性. 第46回近畿理学療法学会大会, 2006. 11, 奈良.

伊吹哲子, 宮坂淳介, 森 公彦, 市橋則明, 中川泰彰, 中村孝志: 前鋸筋上下部の筋電図学的解析— 肩関節角度・運動方向による比較—. 第3回肩の運動機能研究会, 2006. 9, 東京.

Kuroki H, Nakagawa Y, Mori K, Kobayashi M, Yasura K, Suzuki T, Mizuno Y, Ando K, Ohashi T, Ikeuchi K, Nakamura T: Autologous osteochondral grafting: Change in plug cartilage stiffness over time. The 6th ICRS Symposium, 2006.1, San Diego.

Nakagawa Y, Mori K, Kobayashi M, Kuroki H, Suzuki T, Yasura K, Okamoto Y, Nakamura T: Mechanical property of grafted cartilage during mosaicplasty. The 6th ICRS Symposium, 2006.1, San Diego.

Yasura K, Nakagawa Y, Kobayashi M, Kuroki H, Okamoto Y, Nakamura T: Mechanical and biochemical effect of monopolar radiofrequency energy on human articular cartilage. The 6th ICRS Symposium, 2006.1, San Diego.

Okamoto Y, Nakagawa Y, Kobayashi M, Yasura K, Kuroki H, Nakamura T: Osteochondral grafting for treatment of massive chondral defect of the PCL deficit knee: a case report. The 6th ICRS Symposium, 2006.1, San Diego.

Kuroki H, Nakagawa Y, Mori K, Kobayashi M, Yasura K, Okamoto Y, Nishitani K, Nakamura T: Maturation-dependent change in acoustic stiffness of rabbit articular

cartilage faced with each other. The 2006 World Congress on Osteoarthritis, 2006.12, Prague.

岡 徹, 水野泰行, 古川泰三, 伊吹哲子, 小林雅彦, 中川泰彰, 黒木裕士: 広範囲膝骨壊死に対する骨軟骨移植術 (モザイクプラスティ) 後の理学療法の経験. 第41回日本理学療法学会大会, 2006. 5, 前橋.

黒木裕士, 中川泰彰, 森 浩二, 小林雅彦, 安良興, 岡本幸大, 中村孝志: 重度内側型変形性膝関節症における膝蓋大腿関節の超音波特性. 第31回日本膝関節学会, 2006. 6, 沖縄.

内藤紘一, 田中まや, 玉木 彰: COPD を合併した肺癌患者に対する右中葉下葉切除術前後の理学療法. 第16回京都府理学療法士学会, 2006. 2, 京都.

玉木 彰, 大島洋平, 辻田純三, 越久仁敬: 上肢ペダリング時における Locomotor Respiratory Coupling の発生状況に関する研究. 第61回日本体力医学会, 2006. 9, 神戸.

大島洋平, 玉木 彰, 辻田純三, 越久仁敬: 上肢ペダリング時における運動能力の違いが Locomotor Respiratory Coupling の発生に及ぼす影響. 第61回日本体力医学会, 2006. 9, 神戸.

玉木 彰, 内藤紘一, 長谷川 聡, 辻田純三, 越久仁敬: 意図的な運動一呼吸リズムの誘発がトレーニング効果に及ぼす影響. 第41回日本理学療法学会大会, 2006. 5, 前橋.

長谷川 聡, 玉木 彰: 呼吸不全患者の運動療法における呼吸パターンの評価と治療—Locomotor Respiratory coupling の応用—. 第41回日本理学療法学会大会, 2006. 5, 前橋.

玉木 彰, 陳 和夫, 三嶋理晃: 肺移植患者の運動能力と ADL 能力の変化. 第16回日本呼吸管理学会, 2006. 7, 札幌.

田中まや, 玉木 彰, 宮崎博子, 西村浩一: COPD に対する外来呼吸リハビリテーションの2年の経過. 第16回日本呼吸管理学会, 2006. 7, 札幌.

喜多知沙, 玉木 彰: 呼吸器循環器内科病棟における専属理学療法士配属の試み. 第16回日本呼吸管理学会, 2006. 7, 札幌.

Tamaki A, Chin K, Mishima M, Bando T, Wada H: Exercise capacity and Activities of Daily Living in Lung Transplant Recipients. Asian Pacific Society of Respiriology, 2006.11, Kyoto.

榎間春利, 森本典夫, 丹羽さよ子, 徳久朋子, 増満

誠: 在宅高齢者における運動視機能と活動能力について. 第41回日本理学療法学会大会, 2006. 5, 前橋.

池添冬芽, 浅川康吉, 島 浩人, 市橋則明: 高齢女性と若年女性における固有筋力の違いについて. 第41回日本理学療法学会大会, 2006. 5, 前橋.

池添冬芽, 浅川康吉, 島 浩人, 市橋則明: 虚弱高齢者に対する転倒リスク予測のための運動機能スクリーニング法について. 第41回日本理学療法学会大会, 2006. 5, 前橋.

池添冬芽, 市橋則明: 虚弱高齢者の立ち上がり・歩行能力を規定する因子. 第48回日本老年医学会学術集会, 2006. 6, 金沢.

池添冬芽, 市橋則明: 地域在住高齢者に対する運動教室においてトレーニングの内容による効果の違いはあるか? 第61回日本体力医学会大会, 2006. 9, 神戸.

中本 順, 松本大輔, 西山花生里, 池添冬芽, 田野香菜, 松井尋美, 中山知未, 山下修司, 傳 秋光: 慢性腎不全血液透析患者のリハビリテーション 第1報: 糖尿病・非糖尿病患者の日常生活活動度 (運動量) と, SF-36 下位尺度項目による QOL 評価. 第41回日本理学療法学会大会, 2006. 5, 前橋.

松本大輔, 中本 順, 池添冬芽, 坂元真由美, 岡部修一, 谷口 洋, 傳 秋光: 内臓脂肪面積 100 cm² 以上のメタボリックシンドローム患者と隠れメタボリックシンドローム患者の血液所見・血圧値・身体組成の比較. 第41回日本理学療法学会大会, 2006. 5, 前橋.

松本大輔, 中本 順, 池添冬芽, 坂元真由美, 岡部修一, 谷口 洋, 傳 秋光: 隠れメタボリックシンドローム患者の身体組成的特徴. 臨床運動療法研究会, 2006. 4.

西村麻美, 池添冬芽, 北瀬真司, 張 知恵: 高齢者における転倒恐怖感に影響する因子について. 第16回京都府理学療法士学会, 2006. 2, 京都.

大畑光司, 市橋則明, 向井公一: 体重免荷 (BWS) 歩行における免荷量と酸素消費量の関係. 第41回日本理学療法学会大会, 2006. 5, 前橋.

大畑光司, 市橋則明, 春田大志, 南 哲, 向井公一, 中 徹, 坪山直生: 重症脳性麻痺児・者における筋骨格系の加齢変化 超音波画像解析を中心に. 第41回日本理学療法学会大会, 2006. 5, 前橋.

大畑光司, 市橋則明: ラグビー選手とジャンプ動作の動作特性について. 第19回日本バイオメカニクス学会大会, 2006. 9, 埼玉.

大畑光司, 市橋則明, 坪山直生: 脳性麻痺児の骨強度と運動機能の関係. 第61回日本体力医学会大会, 2006. 9, 神戸.

生友尚志, 永井宏達, 西本智一, 田籠慶一, 大畑光司, 山本昌樹, 中川法一, 前田 香, 綾田裕子: 広背筋の機能的分化について 体幹側屈時の筋活動に着目して. 第41回日本理学療法学会大会, 2006. 5, 前橋.

建内宏重, 市橋則明: 変形性股関節症患者におけるステップ動作時の予測的姿勢調節. 第61回日本体力医学会大会, 2006. 9, 神戸.

建内宏重, 田中貴広, 市橋則明, 山口 淳: 変形性股関節症患者における側方へのステップ動作の解析—力学的負荷の変化への適応—. 第33回日本股関節学会学術集会, 2006. 10, 品川.

建内宏重, 市橋則明: 側方へのステップ動作開始時における制御メカニズム. 第19回日本バイオメカニクス学会大会, 2006. 9, 埼玉.

佐藤久友, 建内宏重, 熊田 仁, 梶田眞弘, 大野博, 山口 淳: 身体重心の前後変位における関節モーメントと筋活動の変化. 日本私立医科大学理学療法学会, 2006. 10. 7, 福岡, 日本私立医科大学理学療法学会誌13, 2006.

佐藤久友, 建内宏重, 高山竜二, 熊田 仁, 梶田眞弘, 大野博司, 山口 淳: 身体重心の前後変位における股関節周囲筋の筋活動. 近畿理学療法学会大会, 2006. 11. 26, 奈良, 近畿理学療法学会大会誌, 2006; 36: 67-68.

建内宏重, 田中貴広, 市橋則明, 山口 淳: 変形性股関節症患者における側方へのステップ動作の解析—力学的負荷の変化への適応—. 第33回日本股関節学会学術集会, 2006. 10. 27-28, 品川, 日本股関節学会抄録集, 294, 2006.

建内宏重, 市橋則明: 変形性股関節症患者におけるステップ動作時の予測的姿勢調節. 第61回日本体力医学会大会, 2006. 9. 24-26, 神戸, 体力科学, 2006; 55(6): 842.

建内宏重, 市橋則明: 側方へのステップ動作開始時における制御メカニズム. 第19回日本バイオメカニクス学会大会, 2006. 9. 13-14, 埼玉, 第19回日本バイオメカニクス学会大会論集, 2006; 89.

リハビリテーション科学コース

作業療法学講座

著 書

山根 寛: 新クイックマスター「精神看護学」, 松下

正明・坂田三允編. 東京: 医学芸術社, 2006; 313-317.

山根 寛編著: 精神看護エキスパート16: リエゾン精神看護. 東京: 中山書店, 2006; 48-56.

山根 寛編著: 伝えることの障害とアプローチ. 東京: 三輪書店, 2006; 2-20, 69-82.

山根 寛編著: 移ることの障害とアプローチ. 東京: 三輪書店, 2006; 2-15.

山根 寛: 精神科リハビリテーション学. 日本精神保健福祉士養成校協会編. 東京: 中央法規, 2006; 140-144, 145-146.

山根 寛: 精神障害: 身体に働きかける作業療法アプローチ. 日本作業療法士協会編. 東京: 日本作業療法士協会, 2006; 5-7.

山根 寛: ニューロングステイをつくらない作業療法のコツ. 日本作業療法士協会編. 東京: 日本作業療法士協会, 2006; 6-8.

山根 寛: 精神保健福祉白書2007. 精神保健福祉白書編集委員会編. 東京: 中央法規, 2006; 188.

山根 寛: 精神科リハビリテーション学. 日本精神保健福祉士養成校協会編. 東京: 中央法規, 2006; 140-144, 145-146.

加藤寿宏: 知的障害とコミュニケーション—子どもと作業療法士をつなぐ sensory communication—. 山根寛編, 伝えることの障害とアプローチ. 東京: 三輪書店, 2006; 83-97.

加藤寿宏: 軽度発達障害. 福田美恵子編, 発達過程作業療法学. 東京: 医学書院, 2006; 210-246.

十田玲子, 小西紀一, 岩永竜一郎, 太田篤志, 加藤寿宏, 他6名: 感覚統合とその実践第2版. 東京: 協同医書出版社, 2006.

腰原菊恵: 早期作業療法評価の視点. 小林正義編, 作業療法マニュアル32, ニューロングステイをつくらない作業療法のコツ. 東京: 日本作業療法士協会, 2006; 13-18.

松林 潤: 睡眠ポリグラフィのスコアリングを行ううえでの留意点. NPO 法人 Osaka Sleep Health Network 編, 睡眠医学を学ぶ人のために専門医の伝える実践睡眠医学一. 永井書店, 2006; 168-179.

原 著

丸山恵利加, 山根 寛, 浅野房世: 在宅療養中の関節リウマチ患者に対する園芸療法の可能性について. 精

神認知と OT, 2006 ; 3 : 339-344.

山根 寛 : コミュニケーションとしての作業・身体.
作業療法, 2006 ; 25 : 393-400.

山根 寛 : 精神科作業療法の現状と課題. 日本精神病
院協会雑誌, 2006 ; 25 : 18-23.

山内俊雄, 宮本真己, 佐藤三四郎, 稲森晃一, 山根
寛他 : 司法精神医療従事者の研修・教育ならびに専門
家養成システムの作成実行に関する研究. 平成17年度
厚生労働科学研究「触法行為を行った精神障害者の精
神医学的評価, 治療, 社会復帰に関する研究」分担研
究報告, 2006.

岩佐順子, 山根 寛, 腰原菊恵, 山本可奈子, 須田満
子, 他 : 京都大学医学部附属病院精神科神経科におけ
る作業療法の現状と課題—精神科作業療法室の活動
2004. 健康科学京都大学医学部健康科学紀要, 2006 ;
2 : 51-54.

十一元三 : 広汎性発達障害の神経学的基盤—内側頭
葉と前頭前野を中心に. 現代のエスプリ, 2006 ;
464 : 67-77.

佐野三菜子, 二木淑子, 他2名 : ビデオ画像注視課題
における半側空間無視の異常眼球運動パターンの検
討. 作業療法, 2006 ; 25 : 322-333.

土田玲子, 岩永竜一郎, 山田 孝, 太田篤志, 加藤寿
宏, 日田勝子, 永井洋一 : 日本版感覚統合検査の開
発. 感覚統合研究, 2006 ; 11 : 1-3.

岩永竜一郎, 山田 孝, 土田玲子, 太田篤志, 加藤寿
宏, 日田勝子, 永井洋一 : 日本版感覚統合検査 姿勢
運動・前庭—固有受容覚検査. 感覚統合研究, 2006 ;
11 : 5-10.

太田篤志, 岩永竜一郎, 山田 孝, 土田玲子, 加藤寿
宏, 日田勝子, 永井洋一 : 日本版感覚統合検査 体性
感覚系検査. 感覚統合研究, 2006 ; 11 : 11-19.

加藤寿宏, 山田 孝, 土田玲子, 岩永竜一郎, 太田篤
志, 日田勝子, 永井洋一 : 日本版感覚統合検査 行為
機能検査. 感覚統合研究, 2006 ; 11 : 21-28.

日田勝子, 岩永竜一郎, 山田 孝, 土田玲子, 太田篤
志, 加藤寿宏, 永井洋一 : 日本版感覚統合検査 視知
覚系検査. 感覚統合研究, 2006 ; 11 : 29-35.

加藤寿宏 : 幼児期・学齢期高機能広汎性発達障害児に
対する作業療法支援. OT ジャーナル, 2006 ; 40 :
1063-1068.

西岡陽子, 加藤寿宏 : 通園施設における集団での遊び

支援. 感覚統合研究, 2006 ; 11 : 45-55.

腰原菊恵, 山根 寛 : 神経性無食欲症に対する作業療
法の関与. 作業療法, 2006 ; 25 : 124-134.

酒井 浩, 加藤寿宏 : 注意制御課題実施時の前頭前野
領域における血中ヘモグロビン濃度の変化. 京都大学
医学部保健学科紀要健康科学, 2006 ; 3 : 7-15.

総説・その他

山根 寛 : 伝える・伝わる—コミュニケーションのし
くみ—. 精神認知と OT, 2006 ; 2 : 199-203.

宮田千恵子, 山根 寛 : どうして話さないの—緘黙
症. 精神認知と OT, 2006 ; 2 : 199-203.

山根 寛 : 私の研究方法論 ; 「なぜ, どうして」がは
じまり. 精神障害とリハビリテーション, 2006 ; 10 :
34-35.

加藤寿宏, 東海林美希子 : 訪問療育における作業療法
支援. 作業療法, 2006 ; 25 : 317-321.

加藤寿宏 : 子どもの高次脳機能障害に対する支援.
OT ジャーナル, 2006 ; 40 : 809-817.

学会発表

山根 寛 : コミュニケーションとしての作業・身体.
第40回日本作業療法学会, 2006. 7, 京都.

山根 寛 : 働く人のメンタルヘルス—自律と適応の援
助. 第5回沖縄県作業療法学会, 2006. 10.

山根 寛 : 働く人のメンタルヘルス—自律と適応の援
助. 第5回沖縄県作業療法学会, 2006. 10.

山本陽香, 武田真貴子, 安藤道彦, 小野 泉, 三谷
章 : 運動発現に関与する脳活動—脳磁図計測法を用い
て—. 第40回日本作業療法学会, 2006. 7, 京都.

市川あやこ, 植田京子, 柳本千容, 小野 泉, 三谷
章 : 作業提示の違いによる脳活動の変化—脳磁図計測
法を用いて—. 第40回日本作業療法学会, 2006. 7, 京
都.

井口知也, 二木淑子, 東元尚子 : 高齢者における作業
活動に対する個人的価値観の分析—COPM の枠組み
を使った面接法を用いて—. 第40回日本作業療法学会,
2006. 7, 京都.

佐野三菜子, 二木淑子 : 認知症の上肢機能検査におけ
るメトロノーム使用の影響.

加藤寿宏 : 軽度発達障害児をもつ家族の主訴と学級担
任の主訴. 第40回日本作業療法学会, 2006. 7, 京都.

加藤寿宏 : 軽度発達障害児の支援パートナーとして—

業績リスト

目置かれるために、第24回日本感覚統合学会研究大会、2006.12、新潟。

Enatsu R, Mikuni N, Taki J, Hashimoto N, Ikeda A, Matsubayashi J, Begum T, Usui K, Nagamine T, Fukuyama H: Comparison between magnetometer and gradiometer for spike detection in patients with medial temporal lobe epilepsy. BIOMAG 2006, the 15th International Conference on Biomagnetism, 2006, Vancouver.

松林 潤, 長峯 隆, 前澤仁志, 江夏 怜, 白井桂子, 立花直子, 福山秀直: 聴覚刺激によって発生するノンレム睡眠時の長潜時脳磁場成分の電流源の探索。第36回日本臨床神経生理学会・学術大会, 2006, 横浜。

腰原菊恵: 「作業療法はどう生活を支援できるか」自立支援法に何をみるか大いに語ろう。第40回日本作業

療法学会, 2006. 7, 京都。

白井はる奈, 岡田俊: 高機能広汎性発達障害に対する精神科デイケアプログラム作成に向けての予備的検討: 通所者に対する聞き取り面接を通じて。日本児童青年精神医学会47回総会, 2006。

白井はる奈, 白井壯一, 宮口英樹, 藤原瑞穂: ある重度認知症高齢者の笑い・笑顔表出に関する縦断的研究。第40回日本作業療法学会, 2006. 7, 京都。

白井壯一, 白井はる奈: 重度認知症高齢者に与える介入者の非言語的サインの影響。第40回日本作業療法学会, 2006. 7, 京都。

白井佐知子, 白井はる奈: モヤモヤ病幼児に集中力改善をもたらした要因に関する一考察。第40回日本作業療法学会, 2006. 7, 京都。